

令和元年度小佐野記念財団
高校生国際交流事業(中国・四川省)
サマーキャンプ感想文集

内容

小佐野記念財団高校生国際交流事業（四川省）概要	2
北杜高等学校 1 年 小尾まり	6
甲府西高等学校 1 年 山田 龍一	8
甲府西高等学校 2 年 山下 雄輝	10
甲府東高校 1 年 小池 妃	12
甲府東高等学校 1 年 杉山 紫	14
甲府東高校 2 年 土屋 菜々	18
甲府工業高等学校 2 年 功刀 成真	20
巨摩高校 2 年 東海林 幸	24
山梨高等学校 2 年 武井 莉胡	28
吉田高校 2 年 渡辺 芹奈	30
日本航空高等学校 1 年 古川 嘉恵	32

小佐野記念財団高校生国際交流事業（四川省）概要

滞在日程表

期日	時間	行動予定
8月2日(金)	終日	四川省に移動
8月3日(土)	10:00-10:50	成都企画館を見学
	11:30-12:00	オープニング式
	12:00-13:00	四川省歓迎レセプション
	14:00-16:00	武侯祠を見学、錦里で散策
	16:30-17:30	成都博物館を見学
	宿泊	成都市・望江賓館（ワンジャンホテル）
8月4日(日)	14:00-17:00	内江市第七中学校を訪問（書画、太極拳などを勉強、芸術出し物の披露、ホストファミリーとの面会）
	17:00	ホストファミリーと自由時間
	宿泊	ホストファミリー宅
8月5日(月)	～16:00	ホストファミリーと自由時間
	16:30-18:00	内江師範学院を訪問（太極拳などを体験）
	18:30-19:30	内江市歓迎レセプション
	宿泊	ホストファミリー宅
8月6日(火)	13:00-15:00	成都パンダ繁育研究基地を見学
	17:30-18:30	閉会式
	18:30-20:00	成都市内（太古里）にて買い物
	宿泊	成都市・望江賓館（ワンジャンホテル）
8月7日(水)	終日	帰国

- 1 日 時 令和元年8月2日（金）～7日（水）
- 2 場 所 中国四川省 成都市・内江市
- 3 内 容
 - （1）成都市内三国志史跡他視察
 - （2）内江市第七中学校表敬訪問
 - （3）内江師範学院表敬訪問
 - （4）ホームステイ
 - （5）太古里散策

(1) 成都市内三国志史跡他視察

日 時：令和元年8月3日（土）14時00分～17時30分

場 所：成都企画館、武侯祠、錦里、及び成都博物館

参加者：小佐野記念財団事務局 小泉他1名、本県高校生11名、通訳5名

内 容：午前中は成都企画館にて圧倒的なスケールで発展と成長を遂げていく成都の姿を巨大なジオラマや映像で体感し、午後は三国志の英雄たちを祀った武侯祠他を見学後、伝統的な町並みが再現された複合施設「錦里」でレトロ中国の雰囲気を楽しむながら散策し、四川省の今と昔を体感した。

(2) 内江市第七中学校表敬訪問

日 時：令和元年8月4日（日）14時00分～17時00分

場 所：内江市第七中学校

参加者：同校校長 謝 華権先生他教職員

小佐野記念財団事務局 小泉他1名、本県高校生11名、通訳5名

内 容：謝校長先生他内江市の方々による歓迎昼食会のあと、第七中学校を表敬訪問

- ・書道交流…本県高校生11名がキャンプでの感想を書き寄せて表し、在校生図書による交流を行う。
- ・歓迎会…ダンス部の生徒たちによるパフォーマンス、顔が自在に変化する川劇、音楽の先生による歌唱等熱烈歓迎を受ける。

(3) 内江師範学院表敬訪問

日 時：令和元年8月5日（月）16時30分～18時00分

場 所：内江師範学院

参加者：同校 校長先生、教職員及び生徒併せて約50名

小佐野記念財団事務局 小泉他1名、本県高校生11名、通訳5名

内 容：中国武術及び太極拳について、同校の生徒に交じって基礎練習からいくつかの型を体験し、事務局員共々爽やかな汗を流す。

(4) ホームステイ

日 時：令和元年8月4日（日）17時00分～8月6日（火）8時00分

場 所：各ホームステイ先及び内江市内

参加者：本県高校生11名、内江市第七中学校ホストファミリー

内 容：各ホームステイ先に分かれて、高校生11名が6家庭（全て女学生の家庭）に分かれ過ごした。今年はホームステイの日数を1日増やし、ホストファミリーと過ごす時間をより多く設定した。ホストファミリーと共に市内観光地巡りや買い物で過ごし、生徒たちは身振

り手振りや翻訳アプリなどでコミュニケーションを図りながら交流していた。5日の歓迎レセプション後は再びホストファミリー宅で過ごし、翌朝別れを惜しむ様子が見られた。

(5) 太古里散策

日 時：令和元年8月6日（火）18時30分～19時40分

場 所：成都市太古里

参加者：小佐野記念財団事務局 小泉ほか1名、高校生11名

内 容：前日突然の豪雨にみまわれたことにより、高速道路が通行止めとなつて一時足止めとなり、パンダ基地に到着が午後となつてしまった。そのため現地ガイドのアドバイスにより、午後の予定はパンダ基地見学後成都市街に戻り、成都一の繁華街である太古里を散策し、お土産の買い物や商業施設をめぐって、最新の成都の空気に触れた。

～参加者感想文～

中国サマーキャンプを通して

北杜高等学校 1年 小尾まり

今回、中国にいき自分を成長させると共に今何がしたいのかについて考える良い機会になったと思います。まず、私はこのキャンプに対してあまり前向きな考えをもっていませんでした。理由として、今まで第二言語として、学んだことも触れたこともありませんでした。だからこそ、参加したところで現地の人と交流できるのかという不安がありました。

中国に行く前、中国語について勉強しました。日本語は、中国語がもとになっているから勉強していくうちにこの漢字はこういう意味として中国でも使われているのだと知ったり、日本語と同じ意味として使われているということも知りました。

今回中国の文化を知るということは一番の目的になっていましたが、現地の子はもちろん日本から参加するメンバーとも交流をしたいと思っていました。高校が違うからこそ、高校の話はもちろんレベルの高い考えをもっている人たちと話ができたからこそいい刺激にもなったし自分の考えていることの低さに気づくことができました。



行きの上海から成都に向かう飛行機のなかで、言語の壁にぶつかりました。中国の飛行機のため日本人のキャビンアテンダントはいませんでした。昼食を選ぶ際、中国語で聞かれましたが、聞き取れず困っていると隣に座っていた中国人の男性が英語で通訳をしてくれました。その後も、



Are you from Japan? Have you ever seen a panda? などコミュニケーションをとってくれたことに対して優しさを感じました。しかし、ホームステイ中やホテルで食事をとっている時など、英語も通じなかったときは、どう対応すればいいのかわからなくなりました。中国語で話そうとしても自分のボキャブラリーのなさで大きな言語の壁にぶち当たったと思います。その中でも、自分から話をしたり物事を発信するために、参加したのでジェスチャーやホストファミリーに中国語を教えてもらったりすることでたくさんの

事を学ぶことができたと思います。海外にいき言語の壁にぶつかることは自分の殻を破ることができるいい機会だと思います。だからこそ、消極的になるのではなく積極的に進んでいくことが大切だと思いました。

次に、中国に6日間生活して特に感じたことがあります。

衛生状態についてです。前から、中国のトイレの使い方は日本と違うということは知っていましたが、いざ中国に行ってみて最初の数日間は慣れるのに大変でした。日本のトイレは多機能が備わっていますが、中国のトイレは備わっていません。そこには、まだ充分な整備が整っていないことが分かります。日本と違い国土も人口も多いため完全に使いやすくなる為にも時間と費用がかかるのだと思いました。

私は、このキャンプに参加しこれからやってみたいことができました。それは、もっと様々な国に行きいろんな考えを持った人と関わりたいということです。そして将来、住みやすい世界をつくれるように日々の学びを深めていきたいと思いました。



この夏休みに四川省に行き、中国と日本の友達と楽しい時間を過ごしました。そして、今回の見学からたくさんの新しい知識を得ることができ、楽しかったです。また、たくさんの人と友達になることができました。

中国で《成都》という歌があります。とてもいい歌だと思います。私が成都を好きになったのは、その歌に影響されたからです。

成都にはたくさんの店があります。いつも絶えることなくおいしい食べ物や飲み物を売っています。

成都の以前の道路は狭く、道は平らではなかったのですが、現在は多くの現代的な要素が追加され、以前の道とは大幅に異なっています。以前の街の景色から残るセメントの床は石のタイルで覆われ、壁は中国の伝統の装飾品で装飾され、古い成都の趣を残していました。また、周囲の家には木製の梁と白いコートがあり、古い青いレンガは今でも変化の変遷を表しています。ここでは、過去の茶屋に加えて、より多くのレストラン、コーヒーハウス、土産物店があり、すべてが美しいです。四川省の生活のリズムはゆっくりしており、日常生活の息吹を感じることができました。

さらに、高層ビルが林立する間にも古代の建物が見られます。それらは、私に中国ならではの伝統と現代の融合を感じさせました。今回一番楽しかった見学場所は、武侯祠と錦里です。さきに武侯祠を見学して、次は寺院の反対側から直接錦里に行きました。この町は最も四川省の雰囲気を出す地域です。特に、とてもきれいな小さい街、川、橋などがとても情緒があり、とても古都の趣があって、美しいところです。私はすべてに満足することができました。ただひとつ残念だったことは物価がすこし高いことです。

しかし、私の心の中では、この都市のにぎやかさとは反対に、心の活気が次第に明るい町のネオンの光の下で失われ、山梨の家に帰りたくなりました。

パンダも見に行きました。とてもかわいかったです。ホームステイの時、ホストファミリーが四川の方言を話していたので話の内容がずっとわかりませんでした。しかし、色々な事を話して、とてもいい経験になりました。ホストファミリーの人には感謝したいです。

中国語と日本語ができる私は両国の友好の架け橋となれるよう、これからも勉強していきたいと思っています。

以上です。

ありがとうございました。



世界との架け橋になるためには

甲府西高等学校 2年 山下 雄輝

私は今回の四川省派遣事業を通じて多様な衣食住といったような文化を学び、また急激に成長する中国の現状を見て日本にいたら感じる事がなかったであろう感覚に触れることが出来たと思う。今回の派遣で学び感じたことがありすぎてこのレポートだけでは書き表すことは出来ないが、三つほど書きたいと思う。

まず、写真や動画のような動きの中の一部を切り取ったものと自分の目で見た生のものでは受ける印象が全然ちがうということだ。私は正直に言うと、太極拳というものをあまり知らず今回の派遣の前に少し写真で見ただけだった。その時、私は手足の先までピンと伸びていてカッコいいなという感想を持っていた。ところが実際にそれを見てみると、動きが滑らかで美しいと思った。自身も少しだけ体験してみたが、ゆっくりと動くことの難しさを感じた。さらに、長い歴史の上に成り立っているのも、足をこの方向に動かしたから次の足はこの方向に動くといったような人間の体の仕組みの本質を突いていて無駄な動きがなく必要最低限で最適化されているなと主観的に感じた。

次に、私が一番衝撃を受けたのは、トイレ環境だ。中国ではトイレットペーパーを流すと下水道がつまってしまうため、トイレの横に置かれている籠に使用済みのトイレットペーパーを捨てた。また、そのほとんどが和式で使い慣れていない私にとっては貴重な体験であったが、正直過酷な環境だった。だから、羽田空港に着き最初にしたのは、トイレに行ったことだった。TOTOのウォシュレット付きの温かい便座に懐かしさを覚えた。中国国内に滞在しているときに日本のトイレメーカーのトイレを見つけると嬉しく安心感に似たような感情を抱いた。このことから、日本のトイレ環境はとても恵まれていると分かった。

そして、食文化だ。私は以前一度だけ中国の北京に行ったことがある。中国はとても広大だ。それ故前回、北京で見た文化と四川で見た文化では違っている点を多々見受けられた。それと同様に四川料理は他の地域の料理と一線を画していたと思う。四川料理は辛いということは周知の事実である。しかし、本場の味は私の想像の遥か上を行った。日本で食べる事が出来る四川料理は目ではなかった。辛くて大量に汗をかいたので少し痩せたかもしれない。また、辛い中に旨味もあってやみつきになった。辛いとおなかを壊すことがあるので、整腸剤は必需品だと思った。

最後に、中国は急成長を遂げている。つまり現代と受け継がれてきた歴史が融合していると思った。ホストブラザーのワン君も中国の歴史を細かく教えてくれた。自分も山梨においては日本の文化・歴史を発信していけるよう日本史などを勉強していきたいと思った。以上の三つのことは私の視野を大きく広げた。もっと

視野を広げるためにも、今回のような派遣事業を通じて海外に関心を持ち、日中だけではなく世界各国との架け橋になりたいと思った。



【武侯祠の風景】



成都パンダ繁育研究基地のパンダ



四川料理



中国の男性用の小便器

四川省短期留学を通して

甲府東高校 1年 小池 妃

第3回四川国際友好都市青少年「四川をアジワウ」サマーキャンプに参加させていただくなかで、多くの人に支えられていることを実感しました。この、短期留学を通して気づきがたくさんありました。

まず1つ目は、言葉が通じなくても心は通じあえることです。ホームステイの自由時間ではほかのグループとも一緒だったので10人でいつも行動していました。中国人の3人は私の聞き取りづらい英語を一生懸命聞こうとしてくれてとてもうれしかったです。3人は日本がとても好きで日本で今はやっている曲やアニメなどをたくさん知っていました。なので、親近感がすごくわきました。反日が多い中で日本を好きでいてくれる人に出会えたことはとてもうれしかったです。3人とは、帰国しても連絡を取り合っています。翻訳機や英語を使って会話していて、4月には桜の写真を送ることを約束しました。また再会できる日が来ることを楽しみにしています。

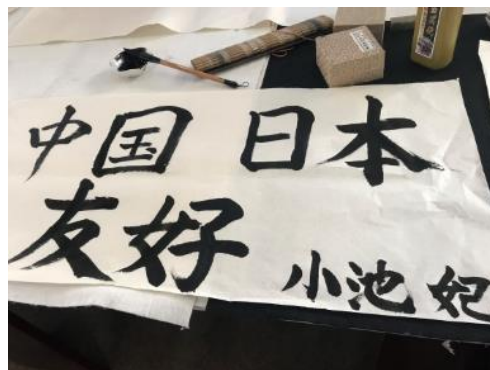
2つ目は、経済が発展していることです。物を買うときは年齢を問わず現金ではなくスマートフォンでキャッシュレス決済をしていてとても驚きました。一緒に行動していたボランティアの方のお財布を見せていただくと現金が一切入ってなくてカードがたくさん入っていました。日本と違う点は他にもあります。夜の11時になってもまだ多くの人々が外で踊っていたり買い物をしたりしていることです。日本では、幅広い年代が広場に集まって遅くまで活動していることがないのでとても新鮮でした。また、博物館や美術館のどこに行っても日本語を話せる人がいてうれしかったです。博物館や美術館の説明は日本人でも難しいのにとっても分かりやすく感心しました。私は、将来国際系に進もうと思っているので世界を知れた感じがしました。

3つ目は、食文化の違いです。滞在中は、とても豪華な四川料理や中国料理、バイキングを食べさせていただきました。四川料理は、量がすごく多くテーブルに乗り切らないものは重ねたり20品くらいあったと思います。本格的な中国料理は初めてだったのでいい経験ができました。中国は日本と違って食べきってはいけません。少し残すのが礼儀ですが、コース料理はほとんど手を付けていないものもあってもったいない気もしました。

4つ目は、気候の違いです。雲が厚く湿気が多いので肌がとてもベタベタしました。5日目の朝は、大雨が降りました。滝のように降っていて日本では災害がおきる時に降るような雨でした。曇っていても蒸し暑くまとわりつくような暑さでした。

最後にこの短期留学にかかわってくれたすべての人に感謝したいです。私はこの事業で積極的になることの大切さを学びました。周りの目やプライドを気にし

ていても何も始まらないと思いました。この事業で少し奥手なところが出てしまったことを後悔しています。これからは、自分の意見は自分で伝え、相手の意見を尊重することも大切にしていきたいです。また、日本と中国の違い、中国の文化、歴史を詳しく知ることができて互いの国を認め合ういい機会になったと思います。この事業を企画し、日中関係を良好にするのに精進してくれた山梨県観光部国際観光交流課の小泉嘉透様、矢竹清美様に感謝申し上げます。今後、山梨県内で行われる日中文化交流事業にも積極的に参加し、経験を積んでいきたいです。中国だけではなく、世界の情勢にも興味関心をもってこの短期留学で学んだことを今後の生活に生かし、勉学に励んでいきたいです。



帰国報告書

甲府東高等学校 1年 杉山 紫

○8月2日（金）

1日目は移動日でした。朝3時に甲府駅に集合し、約5時間かけて羽田空港に行きました。私は、海外に行ったことも飛行機に乗ったことも無く、羽田空港に行ったこともなかったためとても楽しみでした。

羽田空港に着き、8時40分に羽田発 MU0576 の便で浦東に行きました。飛行機の中の機内食はお肉を選択しました。全体的には美味しかったです、白米があまりおいしくなかったです。浦東空港に着き、ここでは入国審査があり、指紋を取られたりしました。初めての中国で言葉が通じず、とても怖かったです。12時25分に浦東発 MU5419 の便に乗り、成都空港に行きました。この飛行機は最初より小さく、乗り心地はあまりよくありませんでした。

この飛行機の機内食で出てきた緬の料理はおいしかったです。しかし、緑色の菜の料理はとても辛く食べられませんでした。



成都空港に着くと、ボランティアの方々が待っていてくださり、安心してホテルに行くことができました。

ホテルに行き、私達は夕食を食べました。バイキング形式でとても食べやすく、おいしかったです。ホテルの部屋はとても過ごしやすく、体を休めることができました。

○8月3日（土）

2日目は、配られたポロシャツを着て、まず成都企画館に行きました。そこでは、町のこと、歴史のことなど成都のことについてたくさんことを学ぶことができました。次に、オープニング式に参加し、昼食を食べました。お刺身盛り合わせや麻婆豆腐などおいしい料理もありましたが、とても辛い料理もあり、口がヒリヒリしました。四川省外事弁公室歓迎レセプションにも参加しました。その後、武侯祠に行きました。ガイドさんが日本語で説明してくれたためとても分かりやすかったです。劉備像、関羽像、張飛像などたくさんの像がありました。説明を聞いた後、少し自由時間があり錦里で観光しました。私はそこで友達とパンダのカチューシャとオレンジジュースを買いました。価格はとても安く、買いやすかったです。その次に成都博物館に行きました。そこでは、たくさんの有名な物などがあり、見ていて楽しく勉強ができました。



○8月4日（日）

3日目は、まずホテルを出て約3時間バスに乗って内江市に移動しました。内江市に着き、昼食をとりました。そのレストランで私はあることに驚きました。それはどこでもたばこを吸ってる人がいたことです。日本では喫煙所がありますが、中国にはないためレストランの中で吸っていました。そしてその吸い殻も捨ててありました。日本ではありえないことなのでとても驚きました。その後、少し周辺を散歩して内江市第七中学校を訪問しました。そこでは、現地の人と習字を書いたり、内江市の高校生のダンス、伝統の踊りなどとても楽しむことができました。そして、ホームステイ家族と会いました。ホームステイ家族はとても優しく、とても良い家族でした。この日の夜ご飯は、お父さんが作ってくれました。5品もおかずが出てきて、辛い料理もありましたがとてもおいしかったです。夜ご飯後、私達は他のホームステイの人とも合流して近くの大きなショッピングモールに行きました。そこには、9時過ぎまでいて疲れましたがキーホルダーなど買い物もでき、楽しかったです。



○8月5日（月）

4日目は4時までホームステイの家族と自由行動でした。朝食は、中国の肉ま

んと豆乳のようなもので、とてもおいしかったです。その後、また他のホームステイの人たちと合流して遊び、昼食も食べました。。この2日間のおかげで中国の人とも日本人同士でもとても仲良くなることができました。その後、内江師範学院を訪問し、現地の人と一緒に太極拳をしました。手の角度などとても細かく、難しかったです。とても貴重な体験をすることができました。内江市歓迎セッションにも参加し、美味しい夕食を食べました。



○8月6日（火）

5日目は雷雨が朝からひどかったです。朝早くホームステイ家族とお別れし、バスに乗って成都に移動しました。そして、成都パンダ繁育研究基地に行きました。私はこの場所を一番楽しみにしていました。ちょうど雨もやんだので良かったです。見たことない数のたくさんのパンダを間近で見ることができて幸せでした。朝の雷雨が原因で予定が狂ってしまいましたが、ガイドさんがパンダを見ることを最優先に考えてくれました。そして、この後の予定だった2つの博物館を見学する予定を中止し、ホテルの近くの場所で班ごとに別れて、買い物をしました。パンダの人形など買うことができ、楽しかったです。そしてこの日の夜は、ボランティアのきんちゃんが配達でタピオカを頼んでくれて、ホテルで女子会をしました。初日には考えられないくらいみんなと仲良くなってとてもたのしかったです。



○8月7日（水）

いよいよ日本に帰りました。広島の人と別れるのは寂しかったですが、みんな安全に帰ることができてよかったです。



●この6日間のサマーキャンプを通して

私がこのサマーキャンプに応募をした強い理由は、新しいことに挑戦したかったからです。日本を旅立つ前は、初めてのことがほとんどで不安しかありませんでした。ですが、小泉さんや矢竹さんが親のような存在でいてくださったり、現地のガイドさんやボランティアの方々、山梨県のみんななどいろいろな人に支えられたお陰でとても素晴らしいものとなりました。自分の家族、小泉さん、矢竹さん、私を支えてくれたすべての人に本当に感謝しています。そして、このメンバーで行けたこと、中国での出会いにも感謝したいです。この経験を忘れずにこれからも過ごしていきたいです。



谢谢！

帰国報告書

甲府東高校 2年 土屋 菜々

四川省への派遣事業は何ものにも変えがたい貴重な経験となりました。四川での6日間は怒濤の日々でした。

旅初日、空港で自分の荷物が出てこなかったときはとても焦りました。小泉さんや龍一くんが手続きをしてくれたお陰でどうにかかりましたが、もし自分一人だったらなにもできなかったと思います。3日目の夜まで自分の荷物無しで過ごしたことは心に残る思い出となりました。ついでに、3日目の昼に強すぎた水道の水圧によってスマホを水没させて壊してしまいました。慣れない辛い中国料理でお腹を壊したり、ホテルで5センチほどの大きなクモが背後にいたり、様々なハプニングがありました。

そんな中でも現地の人々や同じ派遣事業の山梨・広島県の高校生たちと交流をするなかで、色々な人とコミュニケーションを取ることの楽しさや言語を学ぶことの大切さをたくさん感じ、学びました。ホームステイでは中国語と日本語で第一言語が異なることもあり、とても不安でしたが、翻訳アプリや英語を使ってコミュニケーションを取ることができました。お互いの言葉を教え合ったり文化の違いについて話したり、貴重な体験ができました。普段と違う環境だったからこそ、意思疎通ができる嬉しさを感じました。



成都市では、タクシー料金が安かったり、シェアサイクルが現地の人々の生活に根付いていたりすることなど、公共の交通機関が山梨と比べてとても発展していることや飲食店などで文化が異なるなあと感じました。



一番心に残ったのはパンダを見た事です。幸運にも、パンダのお昼ご飯タイムに遭遇しました。パンダが自分のお腹に落ちたり手についたりしたご飯を律儀に全部食べているところに萌えました。



この経験を通じて、普段の生活の中では分からないような気づきや今までの中に新たな発見が生まれました。このような経験ができる機会があることに感謝します。お世話になった県の職員の方々、山梨・広島の高校生の皆さん、そして行かせてくれたお母さん、ありがとうございました。



四川省サマーキャンプに参加して

甲府工業高等学校 2年 功刀 成真

伝統とモダンが融合した街、四川省。私は、このサマーキャンプで四川省に心を奪われました。日本とは異なる中国の文化を直接肌で感じ、四川省の高校生と英語や中国語を使ってコミュニケーションを図ってみたいと思い、仲間と共に飛行機に乗って海を渡りました。この四川省でのサマーキャンプの中でたくさんのことを学び、体験することができました。

最初に、日本の良い面、悪い面を再発見することができました。日本の良い面としては、街がきれいで、順番やルールを守ることによって安心・安全な暮らしかができていくことです。中国は、平気で信号を無視したり、道にごみを捨てたり、列に横入りするなどの光景が見られました。これは、日本では考えられない行動です。しかし、日本の悪い面も発見することができました。それは、日本の都会は緑が少ないことです。成都是、ものすごく都会でしたが大きな森林公園があり、木や花が植えてあるなど緑の多さをとても感じました。これは東京などではあまり見ることはできない光景でした。このように自然を大切にし、この自然があるからこそ、全世界の80パーセント以上のパンダが四川省で生活し、パンダの保護区があるのだと思いました。

次に、現地の言葉を学び、使うことの大切さを感じました。私は、中国に行く前は海外といえば英語と勝手に決めつけ、中国でも英語が使えればなんとかなるだろうと考えていました。しかし、中国の方々は英語があまり通じないということを知り、そこで私は英語で押し通すのではなく、現地の言葉を覚えることが大切だと思いました。そうすれば、自分自身の外国語技術が上達すると共に、相手とよりスムーズにコミュニケーションを図れると実感しました。その為、次回、海外へ行く際は少しでも上手く現地語が話せるよう、深く学習したいと思います。

また、日本と中国の文化の違いを感じることができました。四川省では、伝統芸能の川劇を披露していただきました。川劇はマスクを一瞬のうちに変えて怒りや恐れ、絶望などの喜怒哀楽を表現するものです。四川省では、この川劇を伝統としてとても大切にしていました。私の生活している南アルプス市にも切子という文化財があります。このような文化財や伝統を日本人としてしっかりと守っていき、後継者として努力していきたいと川劇をみて感じました。

そして最後に、私はこのサマーキャンプでの貴重な経験から、世界観が変わりました。それは、この企画に携わってくれた全ての方のおかげです。本当に心から感謝しています。ありがとうございました。そして、いつか必ず今より更に成長した姿で再び四川省を訪れたいと思います。



↑ 四川料理。山椒が効いていてどれも辛かったが、とてもおいしかった。



↑ 中国の交差点。信号無視やクラクションの鳴り響きに驚いた。



↑ 四川のパンダ。私は、初めてパンダを見た。とても可愛く心が癒された。



←ホームステイ先の宇くんと撮った1枚。日本とは異なる文化や生活様式を学ぶことが出来た。



↑中国語で何度も助けてくれた、リゅーちゃんに感謝。



↑内江師範学院の大きな階段前での1枚。みんなの個性的な感じが好きである。



↑ 5 日目の班行動時に撮った写真。後ろにパンダもいて、とてもお気に入りの 1 枚。6 日間お世話になったみんなには感謝しかありません。ありがとう。



↑ これは山梨のメンバーと広島メンバーがお別れのときに空港で撮った最後の男子集合写真。みんなとの別れはさみしいが、また絶対に再会することを約束しお互い地元へ帰った。

帰国報告書

巨摩高校 2年 東海林 幸

8月2日

約半日かけて四川省まで行きました。行くまでに、2回のフライトという貴重な経験をすることができました。飛行機内の機内食は、今まで食べたことのない味がしました。



中国浦東国際空港行きの飛行機

8月3日

成都企画館を見学。四川省の形がよくわかり、世界最古のものがたくさんあることを知りました。昼にはオープニング式、四川省歓迎レセプションを行い食事をしました。食事をした後、武侯祠の見学や錦里での散策、また、成都博物館を見学しました。

四川省の歴史は日本と大きく異なりとても興味がわきました。博物館の前では、切ったままのスイカやメロンを売ろうとする人がいました。日本では考えられないことだと思い、文化の違いを実感することができました。



←成都企画館

錦里の様子→



8月4日

バスで内江市へ移動。内江市第七中学校を訪問しホストファミリーと会いました。中学校では、高校生のダンスの披露や「変面」、歌を発表してくださり、とても楽しかったのが印象に残っています。

ホストファミリーの家に着いて一番驚いたのはトイレです。トイレは、シャワーと同じ場所にあり仕切りがなく、シャワーの水が直接トイレにかかってしまいます。今の私たちの生活と大きく異なり、恵まれていることを実感しました。



↑ホストファミリーとのショット

8月5日

この日は、ホストファミリーとの自由時間でした。市場を歩き、中国のたくさんの店を見ました。いろいろな店で日本製の化粧品がおいてあり、面白かったです。そのあとはショッピングモールで鍋を食べました。ホストファミリーとの時間はあっという間に過ぎていき、別れがとても寂しかったです。言葉が思うように伝わらないこともたくさんありましたが、私たちを2日間泊めてくれたホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。



←お昼ご飯の鍋

8月6日

ホストファミリーとお別れをしてから、成都パンダ繁殖研究基地を見学しました。雨の影響で、高速道路が使えず時間が大幅に遅れてしまいパンダの見学しかできませんでしたが、近くで見る本物のパンダは迫力がありかわいらしかったです。たくさんの草や木があり、自然に近い状況でパンダを飼育することは大切なことだと思いました。そのあと、特別に街を観光することになりました。お土産を買い、大きなパンダのオブジェと一緒に撮り充実した時間を過ごすことができました。



↑オブジェの前での集合写真

8月7日

中国で一緒に行動した広島県の人々とお別れして、飛行機に乗りました。約1週間ぶりに日本に帰ってきたときは、とても安心しました。四川省との交流は私に大きな成長をさせてくれました。この四川省との交流を計画してくださった方々、一緒に行ってくださった矢竹さん小泉さん、またこの交流にかかわってくださったすべての方々に感謝しています。本当にありがとうございました。



↑広島県と山梨県との集合写真

四川省サマーキャンプ報告書

山梨高等学校 2年 武井 莉胡

今回、8月2日から7日まで四川省国際友好都市青少年「四川をアジワウ」サマーキャンプに参加し、日本ではできない貴重な体験をしてきました。私はこのサマーキャンプに参加するにあたり「積極的にコミュニケーションをとる」と、目標を立てました。中国での6泊7日は長いようで短いものでしたが、学ぶことがたくさんありとても内容の濃い期間でした。これは、皆さんのおかげでできた体験です。このサマーキャンプでは大きく分けて3つのことを学びました。このことを、沢山のの人に伝えたいと思います。

一つ目は、中国人の情の厚さです。私の中国人に対する最初の印象は、怖いイメージでした。しかし、中国の方たちは皆笑顔で挨拶をしてくれたり、道路工事をしているおじさんに手を振ると笑顔で手を振り返してくれたり、優しい方ばかりで嬉しかったです。また私が泊まったホームステイ先の影ちゃんの家でも、温かく迎えてくれて安心しました。ガイドさんはとても面白く、中国の街や歴史について教えてくれました。中国のボランティアの方たちも日本語で色々なことを教えて下さり、優しく接して下さったので、気軽に話すことが出来ました。中国の若者たちは友達同士のスキンシップが多く、私たちにも沢山話しかけてくれました。先入観や思い込みで、怖いイメージと決めつけてはいけなと学びました。

二つ目は、四川省の街についてです。緑が多いのですがその中に、マンションやビルがあり、日本ではあまり見ない光景で違和感がありました。道路が広く、たくさん車が走っていました。中国は車が多いため、中国政府がナンバープレートの数字により走行規制を設け、週に一日走ってはいけない日を設定しているそうです。それでも車が多かったので、膨大な量の車があるのだと感じました。ホームステイをした家では驚くことがありました。外国はどこも家の中で靴を履いているものだと思っていたが内履きであったり、お風呂がトイレと同じところであったり驚くことばかりでした。

三つ目は、言葉の壁です。私は、英語を少ししか話すことができなく、中国語はほとんど話すことができませんでした。ですので、なかなかコミュニケーションをうまくとることができませんでした。それでも翻訳アプリや片言の英語で会話しましたが、話したいことがあっても伝わらないモヤモヤがずっとありました。今、グローバル化が進んでおり英語や中国語が必要となっている中、様々な外国の方たちと話せるように外国語学習に力を入れていきたいと改めて思いました。

最後に、このサマーキャンプで出会ったすべての方に感謝したいです。言葉の壁があっても、積極的に話しかけ身振り手振り使って会話すれば通じ合うものがあるのだと感じました。貴重な体験をさせて下さった小泉さん、矢竹さん、温かく迎えて下さった四川省の皆さんに感謝でいっぱいです。本当に有難うございました。



第3回四川省サマーキャンプ 帰国報告書

吉田高校 2年 渡辺 芹奈

私は昨年の四川省ウィンターキャンプにも参加させて頂いたため、今回のサマーキャンプで二回目の中国・成都を経験することができました。私は、今回の事業に参加させて頂くにあたり、2つの目標を掲げました。1つ目は、この事業を通して国籍関係なく多くの人と関わって、たくさんお話をすること。2つ目は、中国の歴史、文化、現在の様子などを細かく観察し、深く学ぶこと、また、その2つの目標を達成するための手段として英語をたくさん使うこと、です。英語を使うことに関しては、前回のキャンプで自身の力のなさを痛感したため、半年の間に必ずレベルアップしようと強く思っていました。

まず、1つ目の目標について、今回の事業では、前回のキャンプ以上にたくさんの方と積極的にお話をすることができました。日本として一緒に行った山梨、広島の高校生の皆さん、ホストファミリーの皆さん、四川省の学生ボランティアとして同行して下さった皆さんなどと会話をして、自分とは違う環境に身を置く人たちと交流を深め、様々な考え方、世界観を知ることができました。それは、その人達がこの世界のなかで何を理想として、どんなことを自分の役割として生きているのか知ることにも繋がり、私の視野が広がりました。

2つ目の目標についても同様に、前回参加した時以上に大きな成果を得ることができました。前は見るものの全てが初めてで、細かいところまで観察、考察する余裕がありませんでしたが、今回は街の人の暮らしや交通網、ガイドさんが教えてくれたちょっとした小話などをメモしてみたりと興味をもって観察し深く学ぶことができました。

そして、自身の英語力については、半年間努力した分前回よりもレベルアップできたと感じることができました。残念ながらホームステイ先では英語が通じなかったので使う機会がありませんでしたが、飛行機内など、一回で自分の言いたいことが伝わり達成感を感じました。ただ、自身の英語力はまだまだだと感じた部分もあったので、努力を継続していきたいです。

今回のサマーキャンプを通して、2回目だからこそ、ということ大切に非常に有意義な時間を過ごすことができました。そして、中国籍をもちながら流暢な日本語を話す学生ボランティアの皆さんの姿を見て本当にすごいなと思いました。私もこの人たちと同じように、母国語以外の言語を操ることができたらもっとたくさんの人とお話することができ、自分の世界を広げることができるのではないかと思います。また、ホストファミリーと翻訳アプリメインでの交流になってしまったとき、自分が中国語を話せたらもっとよい体験をすることができたのではないかと悔しく感じたのと同時に、中国語に対して大変興味が湧いたため、大学に進学した際には中国語を学びたいと考えるようになりました。

最後に、今回の事業に携わって下さった皆様、このような貴重な体験をさせて頂き本当にありがとうございました。関わって下さったたくさんの方への感謝の気持ちを忘れず、これからも日々精進していきたいです。



研修レポート

日本航空高等学校 1年 古川 嘉恵

1日目（8月2日）

午前3時に甲府駅で集合した私たちは、羽田空港に向けて出発しました。

ほとんど初対面の人たちとこれからどんな旅が始まるのだろうと緊張もありましたが、空港に着いてからいよいよ中国に行くのだと思いとても楽しみになりました。



羽田空港

~中国到着~

乗り継ぎの上海空港に着くと蒸し暑さが一気に襲い掛かりました。中国の空港の手荷物検査は日本より厳しく、私は傘を持っていた為、止められてしまいました。その後、四川省に向けて飛行機を乗り継ぎ出発しました。

四川省に到着後、バスで四川省の街を観光しながらホテルに向かい1日が終わりました。

2日目（8月3日）

2日目は、成都企画館、武侯祠、錦里の散策、そして成都博物館を見学しました。錦里では、中国風の建物のお店がたくさんありました。その中には中国風のスターバックスコーヒーもありとても面白かったです。

成都博物館で私たちは、中国や麻婆豆腐の歴史を知ることができました。他にも昔の人たちが使っていた枕や船など色々展示されており、中国の文化の発展についても知ることが出来ました。



スターバックス



武侯祠

3日目（8月4日）

3日目は、内河市へ向かいました。内河市に到着するとガイドさんが私たちを中華に連れて行ってくれました。その中華は、私が中国に来てから一番おいしかったです。特に、ご飯のおこげを丸くしたものがスープにかぶさったものが一番おいしかったです。おこげは、お玉で割ってから食べます。



左下おこげ

~内河市第7中学校訪問~

まず書画の体験をしました。その後、第7中学校の生徒のダンスと中国の伝統芸「変面」を鑑賞しました。変面は一瞬で顔を変える芸で、顔を変える仕組みがとても気になりましたが、とても面白かったです。

出し物が終わると、ホストファミリーのヨウちゃんと一緒に家に向かいました。家に着くと水をゼラチンのような粉で固めたゼリーに黒蜜をかけたデザートをいただきました。ゼリー自体は甘くないので黒蜜のちょうどいい甘さがとても美味しかったです。そのあと、家庭料理をいただいて1日が終わりました。



左 変面 ↑



右 デザート

4日目（8月5日）

4日目は、ヨウちゃんとヨウちゃんの友達、そして私と友達でショッピングセンターへ行き、買い物を楽しみました。ショッピングセンターはとても広く、私は、そこでかわいいストラップを買うことが出来てとても嬉しかったです。

夕方は、みんなと合流して太極拳の見学、体験をしました。太極拳は、やってみるととても難しく上手く出来ませんでしたが、貴重な体験ができて良かったです。太極拳の後は、内河市歓迎レセプションに参加し美味しいご飯を頂きました。

~その日の夜~

私たちは、ヨウちゃんから日本円を中国元に交換してほしいと言われ、日本円を紹介しました。まず、小銭類を全部見せて、ヨウちゃんとヨウちゃんの家族が一番興味を持ったのは、5円玉と50円玉でした。中国には穴の開いたコインはないのでとても気に入っていました。次に1000円札を見せました。中国元で一番大きな数は100元なので「1000」という数にとっても驚いていました。なので、5000

円札、1万札と数を大きくして見せる度にとっても驚いていたので少し面白かったです。結局、

小銭類と1000円札を交換しました。すると、ヨウちゃんのお父さんがもう中国には出回っていない1角（0.1元）のお札を見せてくれました。100元より小さく、今出回っている5角（0.5元）のお札と同じくらいのサイズでしたが、それを私たちにくれました。もう出回っていないくて貴重なはずですが、私たちにくれて嬉しかったです。



レセプションの帰りに見た夜景

5日目（8月6日）

ホストファミリーとの最終日。おばあちゃんが私たちのために朝ご飯を作ってくれました。そうめんのような見た目ですが、味はラーメンのような麺で美味しかったです。短い間でしたがお世話になったホストファミリーと寂しいですがお別れして成都へ向かいました。

~成都パンダ繁殖研究基地~

時間がおした為、この後予定されていた見学を全部キャンセルして、1日パンダ見学になりました。世界の約8割のパンダが四川省にいたので中国に来たら楽しみにしていた場所の1つでした。パンダ繁殖研究基地ではたくさんのパンダとパンダの赤ちゃんそしてレッサーパンダに会うことができました。

私たちが見学をしていると、パンダの飼育員がエサをあげるためにパンダの名前を呼び始めました。すると、色々なところからパンダが反応して集まりだしたので、人もたくさん集まりギュウギュウ詰めになりましたが、みんなかわいいパンダを見ようと必死になっていました。遠くの木の上にいたパンダも、いろんなと

ころでこけたりしながらこちらに来たのでとても可愛かったです。



6日目（8月7日） まとめ

中国の旅の最終日、朝早く出発して空港へ向かいました。短い滞在でしたが、色々なことが初めてで長く感じました。特に、違った食文化、建築物、気候など、現地に行かないと分からないことを知ることができて良かったです。

日本に着くと、今朝まで中国にいたことが夢のように感じましたが、今度は自分一人で行ってみたいと思いました。それから、ホームステイをさせてもらった、ヨウちゃんに今度は日本に来てもらって、日本の文化に触れてもらいたいと思いました。

